

事例番号：240007

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第一部会

1. 事例の概要

経産婦。妊娠37週6日に持続性の腹痛を自覚したため入院となった。入院時、胎児心拍数陣痛図で80拍/分、超音波断層法で30拍/分の胎児徐脈を認めた。内診で、凝血を伴う血性の膣分泌物がみられ、子宮口は全開大しており、児頭が見える状態であった。入院から11分後に経膣分娩となった。なお、家族によると吸引分娩が行われたとされている。児の娩出とともに、凝血塊が流出し、その量は376gであり、羊水は血性であった。

児の在胎週数は37週6日で、体重は2400g台であった。出生1分後のアプガースコアは1点、5分後のアプガースコアは2点であった。臍帯動脈血ガス分析は行われなかった。直ちに蘇生が行われ、すぐに心拍が回復し、チアノーゼはなかった。出生9分後に自発呼吸がみられ、出生1時間後、気管内チューブが抜去されたが、児の手足に痙攣様の振戦がみられたため、保育器の側壁に保温用に湯たんぽ2個が置かれ、児は、周産期母子医療センターのNICUへ搬送された。NICU入院時の動脈血ガス分析値は、pHが7.25、BEが-12.9mmol/Lで、体温が33.4℃であった。頭部超音波断層法で、脳室の描出は悪くなく、脳浮腫は強いものはないと判断された。生後38日目に行われた頭部MRIでは、両側の大脳基底核、内包後脚に微小出血が認められた。

本事例は、診療所における事例であり、産婦人科専門医1名と准看護師1名関わった。

2. 脳性麻痺発症の原因

本事例における脳性麻痺発症の原因は、妊娠37週6日に発生した常位胎盤早期剥離により生じた低酸素性虚血性脳症が、脳性麻痺の主な原因である可能性が高い。しかし、児の代謝異常や筋疾患があった可能性もある。

3. 臨床経過に関する医学的評価

妊娠歴、病歴、既往等を聴取しなかったことは一般的ではない。膣分泌物培養検査を行わなかったことは基準から逸脱している。常位胎盤早期剥離を伴った急激に進行した分娩に対しては、吸引分娩が行われた場合であっても、一般的である。新生児仮死に対する蘇生は適確であるが、搬送中を含めた新生児の保温の方法については一般的ではない。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

(1) 妊娠歴、病歴、既往等の聴取について

妊娠管理において妊娠歴、病歴、既往歴等を聴取することが必要である。

(2) 膣分泌物培養検査（GBSスクリーニング）について

本事例では、膣分泌物培養検査（GBSスクリーニング）が行われていなかった。「産婦人科診療ガイドライン産科編2011」では、妊娠33週～37週に実施することが推奨されており、ガイドラインに則した実施が望まれる。

(3) 胎児心拍数陣痛図の記録速度について

「産婦人科診療ガイドライン産科編2011」では、胎児心拍数陣痛図の記録速度は、3cm/分を推奨しており、より判定が容易となるようにするためには、1cm/分よりも、3cm/分を使用することが必要である。

(4) 臍帯動脈血採取について

本事例において、出生直後の臍帯動脈血ガス分析が行われていない。臍帯動脈血ガス分析によって、分娩前の胎児低酸素症の状態を推測することが可能となる。特に新生児仮死の状態で見が出生した場合は、臍帯動脈血ガス分析が行われることが勧められる。測定装置がない場合には、臍帯動脈血を適切に採取することで、搬送先の高次医療機関で測定できる。これらの方法を今後検討することが望まれる。

(5) 新生児搬送について

本事例では、新生児搬送の際、移動用保育器の側壁に湯たんぽが置かれていた。重症仮死で出生した児は、低体温をきたしやすく、十分な保温が必要であり、湯たんぽの使用は新生児の熱傷の危険性があるため、新生児が低体温とならず、熱傷の危険性がない搬送方法について検討することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

特に検討すべき事項はない。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

常位胎盤早期剥離の発生状況および予防方法や早期診断について調査、

研究を行うことが望まれる。また、一般の妊婦に対し、常位胎盤早期剥離という疾患と初発症状等に関して周知をすることが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

本事例は、当該分娩機関の湯たんぽを側壁に置いた移動用保育器で新生児が搬送され、NICU到着時には低体温となっていた。国・地方自治体に対して、児を安全に搬送できるように、新生児の搬送システムを整備することが望まれる。理想は新生児科医が同乗し新生児を搬送できる体制の構築であるが、それが不可能な場合は、搬送用保育器、搬送用のモニター等を整備した救急車を配備することが望まれる。